



# 大山地域

# 大山地域小・中学校の再編原案検討のポイント



## 再編原案選定の過程

- (1) 大山地域の再編対象校は上滝小、福沢小、小見小である。
- (2) いずれの再編原案においても、長期的には小規模となるが、月岡小と隣接する再編対象校は福沢小のみであり、上滝小及び小見小は大庄小校区を越境することから同一地域生活圏内での再編を検討した。
- (3) 同一地域生活圏内に中学校が一つであることから、上滝中学校への小学校の併設についても検討した。

## 学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数												
上滝	1	15	1	9	1	13	1	21	1	15	1	16	6	89
大庄	2	37	1	34	2	48	2	37	1	29	2	45	10	230
福沢	4	4	2	5	1	6	8	1	7	1	7	3	3	32
小見	1	1	2	2	2	2	1	2	3	3	1	3	3	13

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

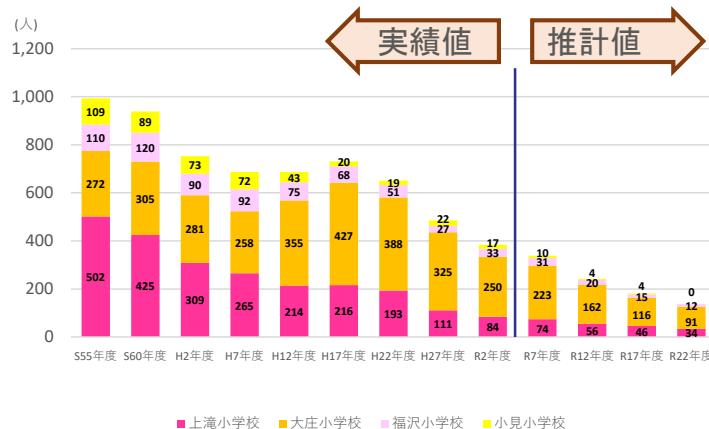
※福沢小及び小見小は1・2年生、3・4年生及び5・6年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
上滝	2	70	2	65	2	79	6	214

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

## 小学校児童数推移

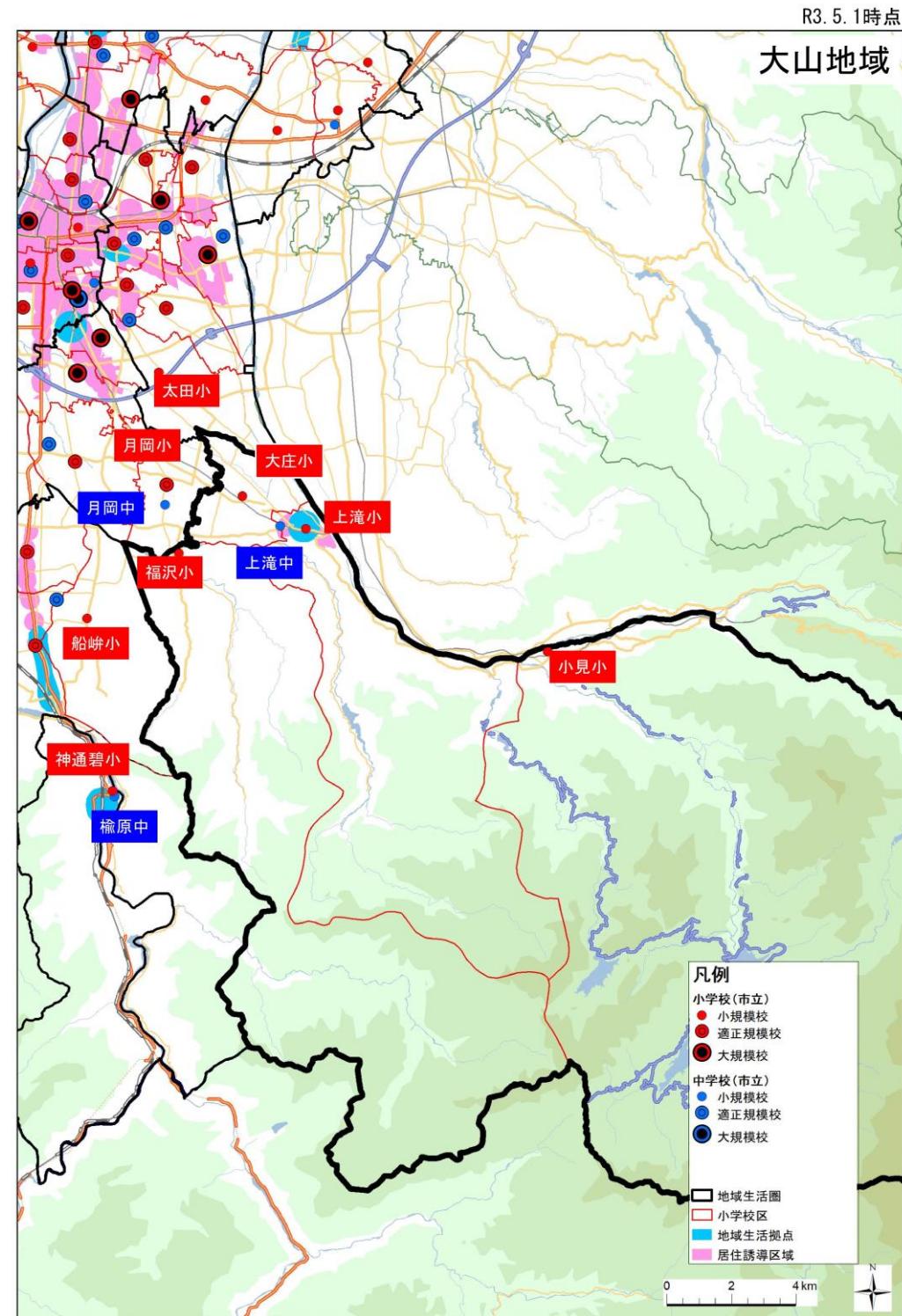


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）  
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

## 中学校生徒数推移



## 学校位置図



R3.5.1時点

大山地域

凡例  
 小学校(市立)  
 ● 小規模校  
 ■ 適正規模校  
 ● 大規模校  
 中学校(市立)  
 ● 小規模校  
 ■ 適正規模校  
 ● 大規模校  
 □ 地域生活圏  
 □ 小学校区  
 ● 地域生活拠点  
 ■ 居住誘導区域

0 2 4 km

# 大山地域小・中学校再編原案リスト



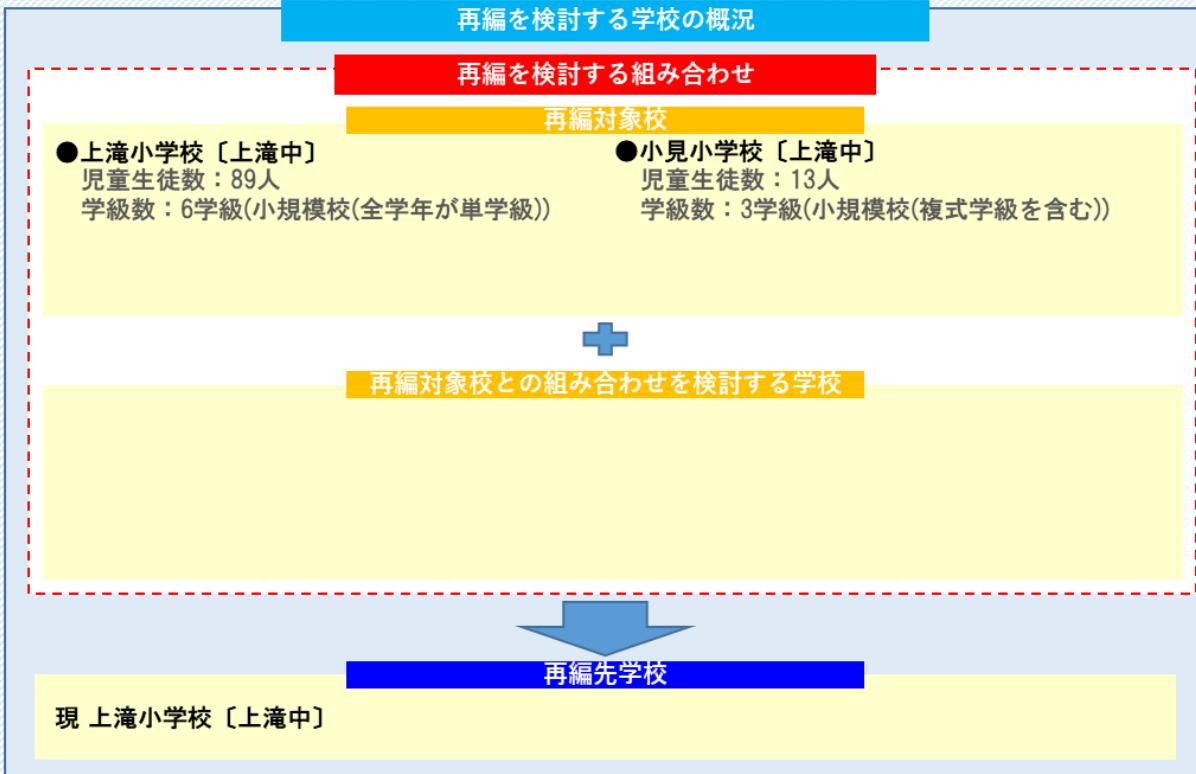
《地域内の学校》

小学校: 上滝小学校、大庄小学校、福沢小学校、小見小学校

中学校: 上滝中学校

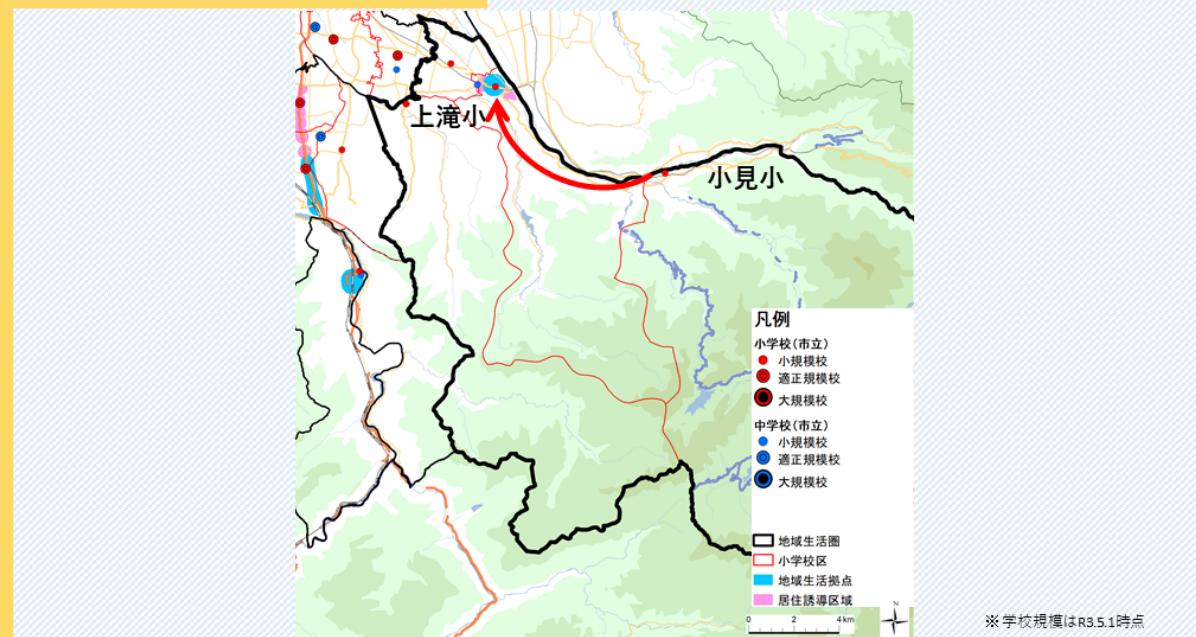
地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ							再編原案	手法				
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)				再編先学校の教室充足状況				通学 距離			
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22	R7	R12				R17	R22	R3
大山	小見小学校	上滝小学校		現 上滝小学校	小 (6)	小 (6)	小 (6)	小 (6)	4	4	4	4	92%	12人	大山-1 (1)	一次統合
	福沢小学校		大庄小学校	現 大庄小学校	適正 (12)	小 (7)	小 (6)	小 (6)	0	5	6	6	87%	27人	大山-1 (2)	
	福沢小学校、小見小学校	上滝小学校	大庄小学校	上滝中学校併設小学校	適正 (12)	小 (10)	小 (6)	小 (6)	-	-	-	-	17%	61人	大山-1 (3)	最終統合
	福沢小学校、小見小学校	上滝小学校	大庄小学校	現 大庄小学校	適正 (12)	小 (10)	小 (6)	小 (6)	0	2	6	6	36%	48人	大山-2	統合

再編を検討する学校の概況



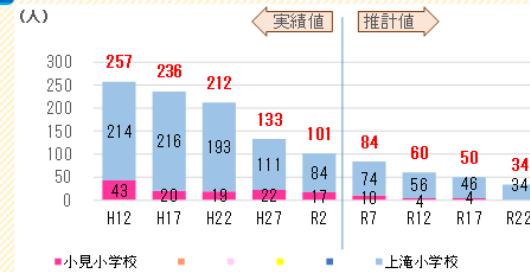
※〔 〕内は進学先中学校  
 ※( )内は学校規模  
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく  
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



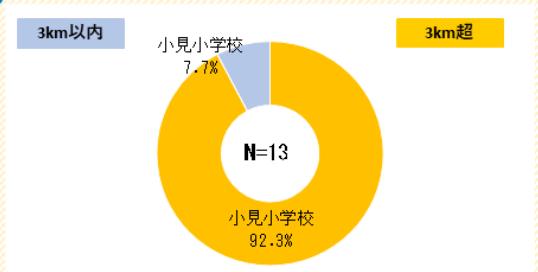
※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
 ※赤字は児童生徒数の合計  
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
 ※令和7年以降はコーホト変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



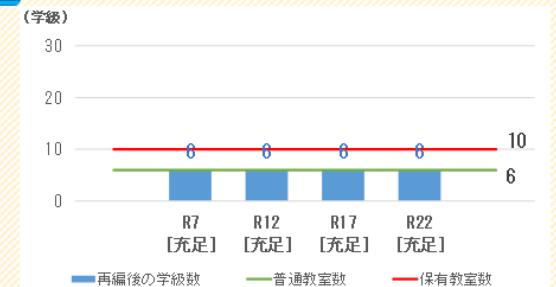
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
 大規模：学級数が19学級以上  
 小規模：学級数が11学級以下  
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



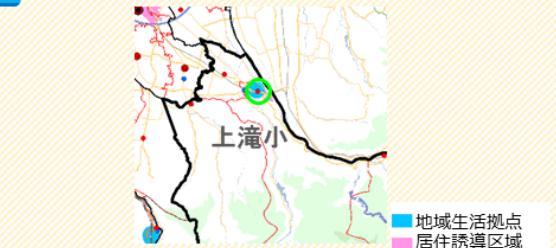
充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。  
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。  
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
 ※コーホト変化率法に基づく推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A
校舎2 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数40年)	○	A	A	A	A	A

A：概ね良好  
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)  
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)  
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)  
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所  
 (洪水時には3階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

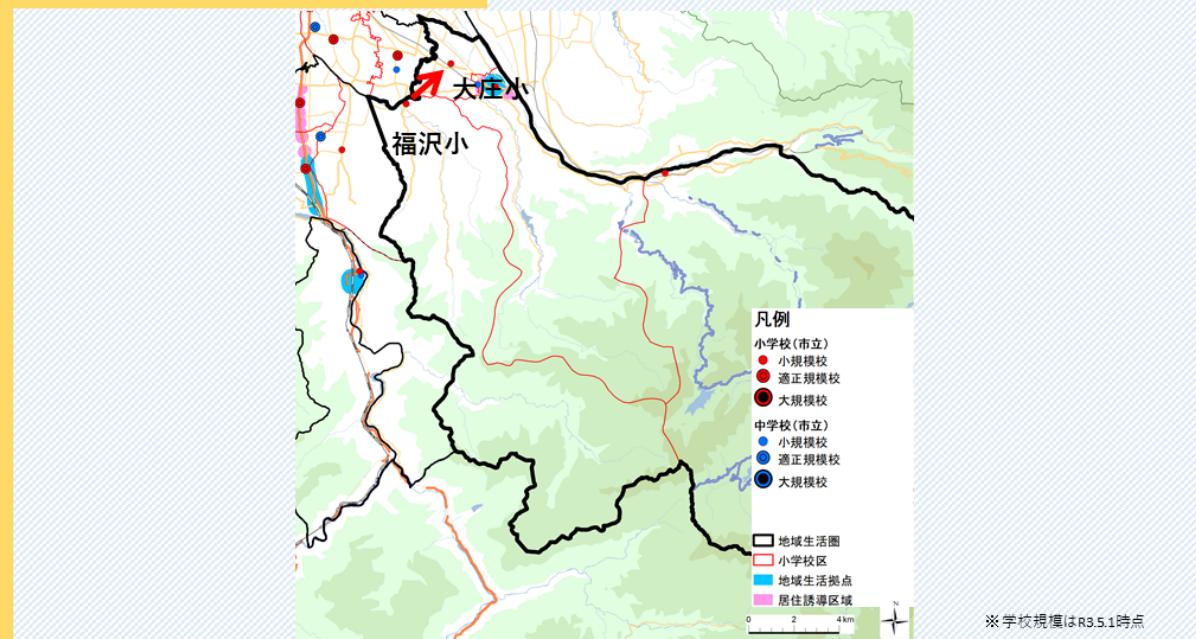
- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
- 【その他】最終的には上滝中学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況



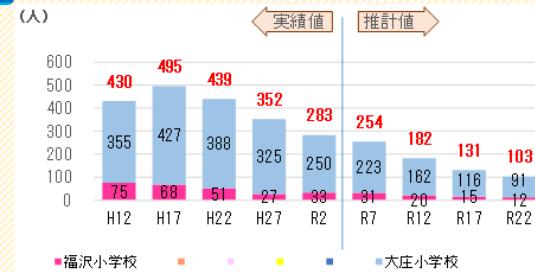
※( )内は進学先中学校  
 ※( )内は学校規模  
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく  
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
 ※赤字は児童生徒数の合計  
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
 ※令和7年以降はコーホト変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



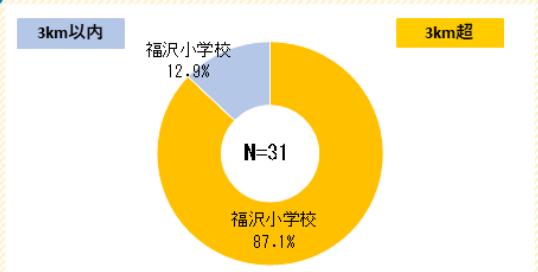
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
 大規模：学級数が19学級以上  
 小規模：学級数が11学級以下  
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数35年)	○	B	B	A	A	A
校舎2 (建築年数17年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数34年)	-	B	B	B	B	B

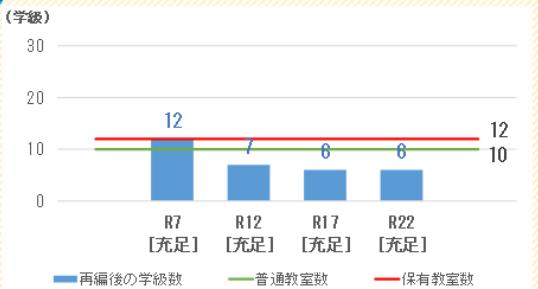
A：概ね良好  
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)  
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)  
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)  
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



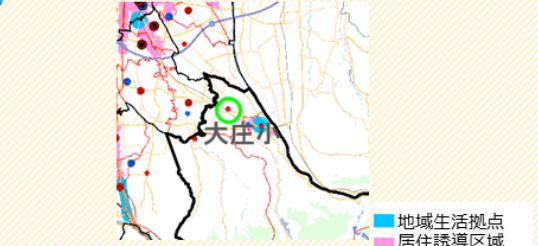
※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。  
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。  
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所  
 (洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。農用地域からの除外が必要となる可能性がある。
- 【その他】最終的には上滝中学校への集約を検討する。

再編を検討する学校の概況

再編を検討する学校の概況

再編を検討する組み合わせ

再編対象校

- 上滝小学校〔上滝中〕  
児童生徒数：89人  
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))
- 小見小学校〔上滝中〕  
児童生徒数：13人  
学級数：3学級(小規模校(複式学級を含む))
- 福沢小学校〔上滝中〕  
児童生徒数：32人  
学級数：3学級(小規模校(複式学級を含む))



再編対象校との組み合わせを検討する学校

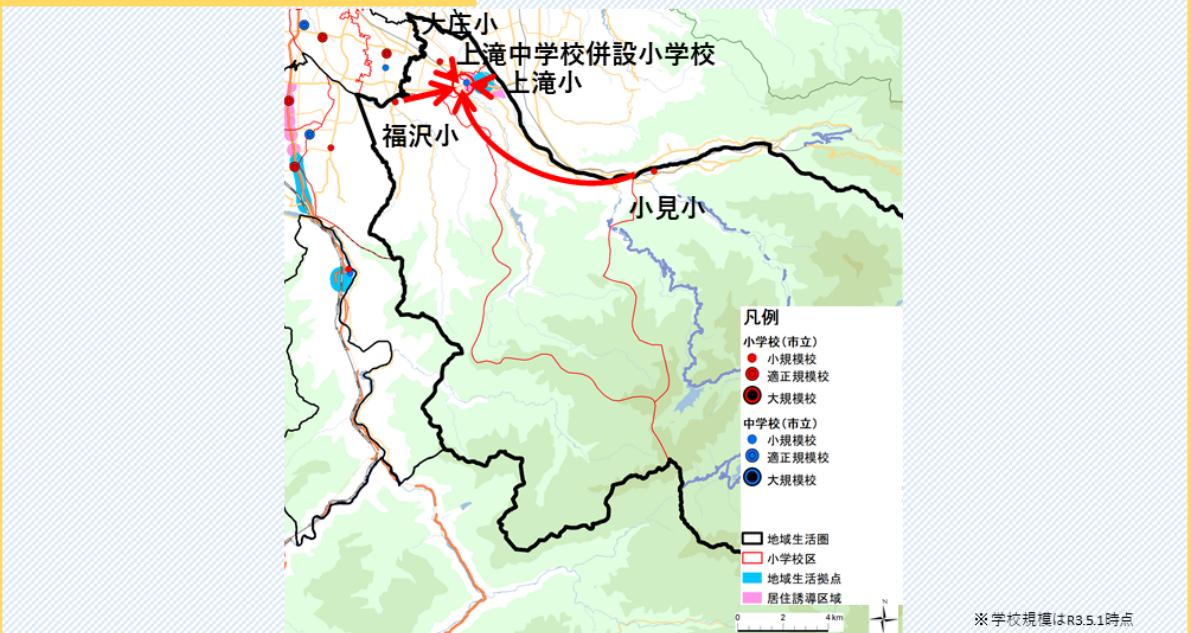
- 大庄小学校〔上滝中〕  
児童生徒数：230人  
学級数：10学級(小規模校)

再編先学校

現 上滝中学校併設小学校〔上滝中〕

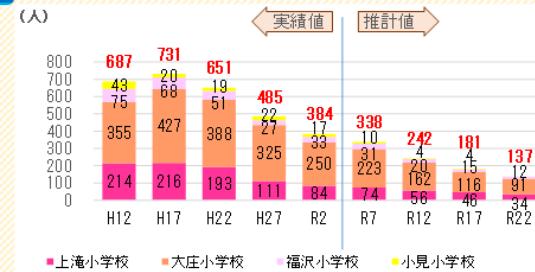
※〔 〕内は進学先中学校  
※〔 〕内は学校規模  
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく  
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



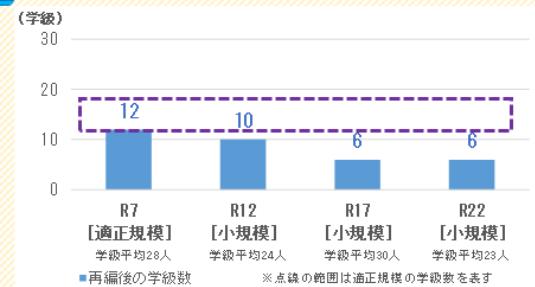
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
※赤字は児童生徒数の合計  
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
※令和7年以降はコーホト変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



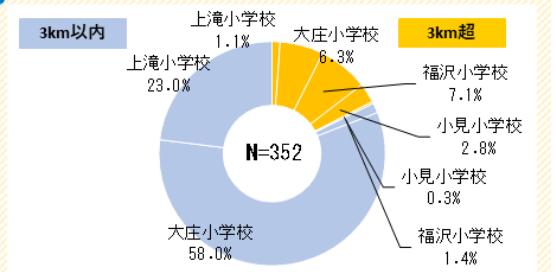
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
大規模：学級数が19学級以上  
小規模：学級数が11学級以下  
※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-

A：概ね良好  
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)  
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)  
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)  
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。  
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。  
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

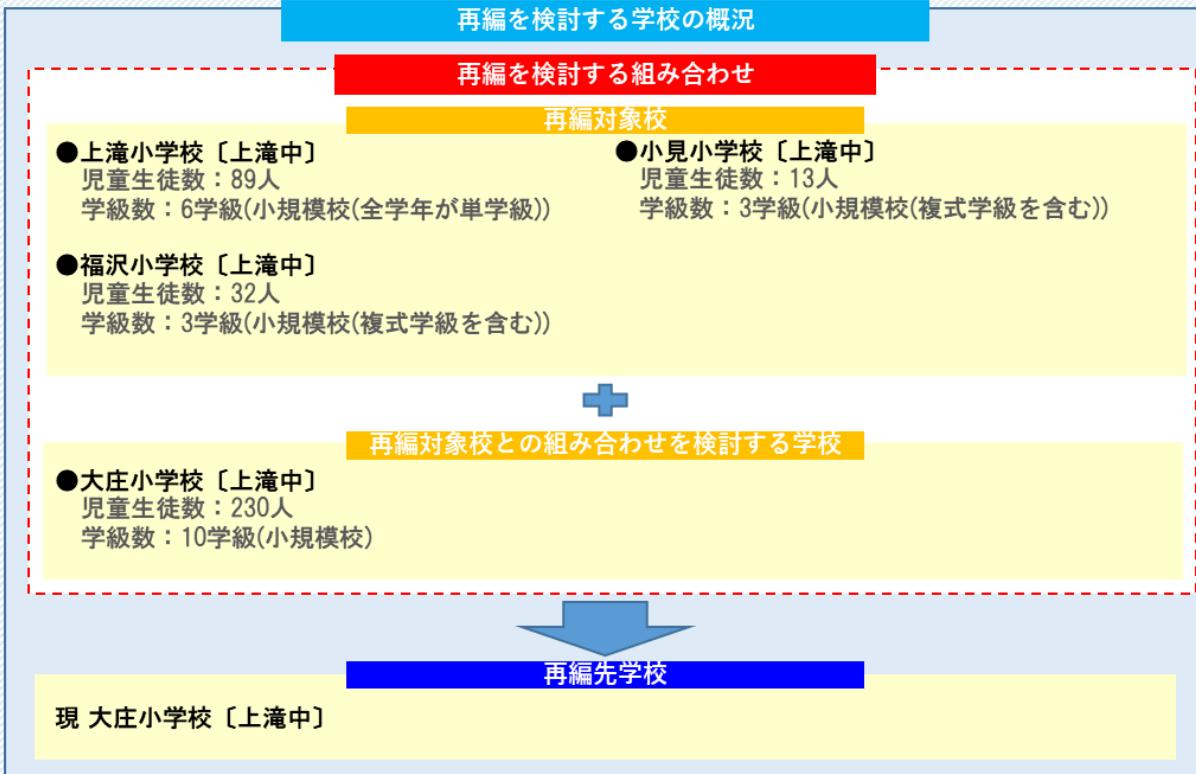
第2次避難所  
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

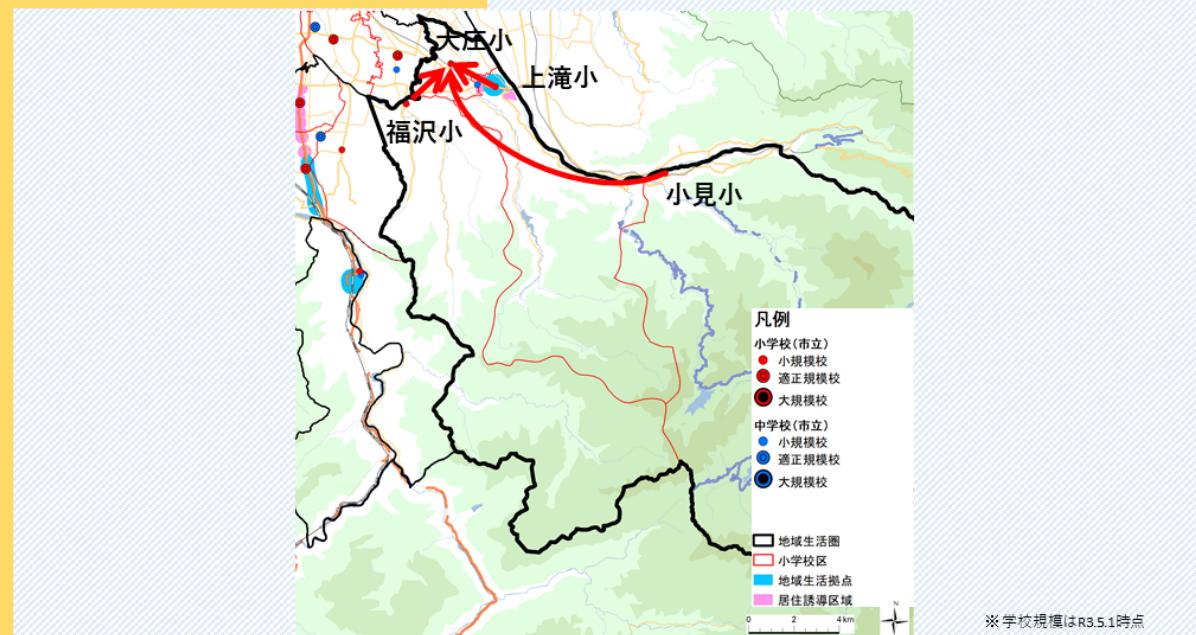
- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。  
農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。
- 【その他】上滝中学校は令和3年度に校舎が、令和6年度に体育館が完成する予定である。

再編を検討する学校の概況



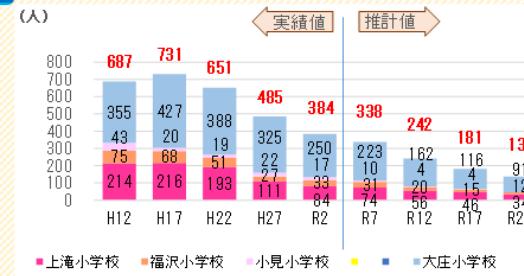
※〔 〕内は進学先中学校  
※〔 〕内は学校規模  
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)、(3)及び(4)に基づく  
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
※赤字は児童生徒数の合計  
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
※令和7年以降はコーホト変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



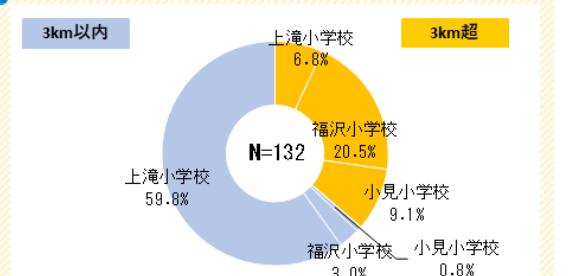
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
大規模：学級数が19学級以上  
小規模：学級数が11学級以下  
※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数35年)	○	B	B	A	A	A
校舎2 (建築年数17年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数34年)	-	B	B	B	B	B

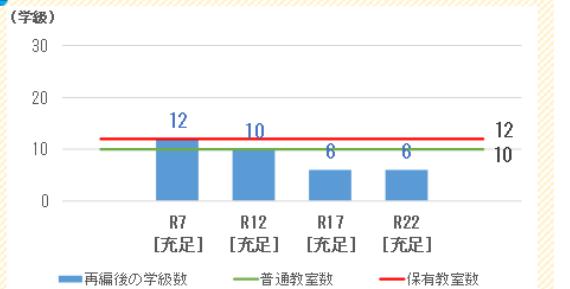
A：概ね良好  
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)  
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見込み)  
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)  
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。  
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。  
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所  
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。